

海外中低所得層のための宿泊滞在施設整備計画

観風(かんふう)の旅の宿プロジェクト

- 観風の旅のすすめ
 - 観風(かんふう)の旅とは、大きな観光地を見るのではなく、何のへんてつもない町に行って、その土地の風を感じて自分ならではの新しい発見や、見知らぬ人との出会いを楽しみながら旅をすること(観風はこの提案書のための造語ではない。広辞苑「観光」参照)
 - 観風の旅の宿は、旅人同士や旅人と町の人が出会い、交流ができる場
 - TVで放映する旅番組は豪華な温泉やグルメの旅ばかり
 - 新しい旅の概念である観風の旅の楽しさをネットで伝え合う仕組みの整備の必要性
- 幅広い層を受け入れることのできる真の観光立国をめざす
 - 観風の旅の宿を全国に整備することで、国内外の移動人口・滞在人口が爆発的に増加する
 - これまで日本への旅が高価なためにあきらめていた外国人、所得減のため旅をあきらめざるをえなかった年金生活者が、日本じゅうを旅することができる
- 中低所得層向けの宿泊・滞在施設の整備が急務
 - ヨーロッパ等に比べて決定的に不足
 - 確実に旅行客が増えることは、簡易宿泊所(大阪市西成区)で既に立証済み。観光地や都市部のゲストハウスは少しできつつあるが常に満杯。需要に全く供給が追いついていない。また地方都市には皆無。
- 地域経済活性化・新たな雇用の創出・滞在人口の増加が実現すると共に、社会保障政策にも結び付く多様な波及効果が期待できる
 - 空家や空き店舗を活用することで、衰退する中心市街地の活性化が期待できる
 - 雇用の創出、若い世代の起業・創業を生み出すことができる
 - 年金生活者の所得づくりや生きがいづくりにもなる
- 訪日外国人の目標3000万人における具体的な内訳と制度設計が必要
 - 富裕層・中間層・低所得層ごとの目標数を出すべき
 - 特に、中・低所得層向けの旅のインフラ整備が必要(アジアでは中間層、欧米では低所得層)
 - ローコストキャリアの増便や、中国人個人旅行者の増加にも対応
 - 新規参入者を促したり、旅人の裾野を広げ、真の観光立国をめざすべき
 - 既存の業界団体加盟業者や「観光」という既成概念に縛られ、柔軟で斬新な構想が打ち立てられず、新しいマーケット創造ができていない